

番号	題目	発表者名	所属
14A-56 (6C)	固体臭素の圧力誘起分子解離と スケーリング則	藤井保彦, 長谷喜代司, 大石泰生, 浜谷 望, 藤久裕司, 竹村謙一 <sup>1</sup> , 下村 理 <sup>1</sup> , 亀卦川卓美 <sup>2</sup> , 雨宮慶幸 <sup>2</sup> , 松下 正 <sup>2</sup>	阪大基礎工, 無機材研 <sup>1</sup> , 高 工研 <sup>2</sup>

## 研究会報告

## 第10回UVSOR研究会報告

分子科学研究所

木村 克美, 渡辺 誠

UVSORでは1年に1回研究会を開催している。以前はUVSOR計画の討論がなされたが、本格的運転(1984年)以降はUVSORを用いた研究成果の発表・討論を行い、その中で研究上・技術上の今後の課題をさぐっている。1988年12月に開催された第10回研究会では、実験が行われた所内用4本のビームライン(所外からも協力研究を申請して利用できる)および所外用10本のビームライン(所内からも施設利用を申請して利用できる)からのこの一年の成果が報告され、活発に討論が行われた。さらに2件の招待講演とビームライン第2期計画の討論があった。第1期計画では分光、光電子分光、光化学および化学反応素過程の4分野に力を入れてきたが、今後の分野として固体・表面光化学と光励起新物質合成が議論された。また既成のビームラインの性能向上(放電による汚染された光学素子の洗浄等)についても議論された。1988年はUVSOR試運転成功5周年にあたったので(1983年11月10日に試運転に成功)、簡単な記念式典も行った。参加者数は約50名であった。プログラムは以下の通りである。

12月9日(金)

13:30-13:35	挨拶	分子研	木村 克美
13:35-14:05	極端紫外光による機能性固体表面の作成と制御	北大触媒研	佐藤 真理
14:05-14:35	表面吸着分子のphoto-induced dissociationへの UVSORの利用と関連して	北大触媒研	浅田 洋
14:35-14:55	アンジュレータ光照射によるKCl結晶上のCN <sup>-</sup> 生成	福井大工	中川 英之
14:55-15:15	シリコン化合物半導体の光励起エッチング反応	分子研	正島 宏祐

15:15-16:00	第2期計画について		
	概要説明	分子研	渡辺 誠
	コメント	高工研	小出 常晴
	コメント	広島大理	関 一彦
16:00-16:30	-休憩-		
	-UVSOR試運転成功5周年記念行事-		
16:30-16:50	挨拶	分子研	井口 洋夫
16:50-17:15	光源の現状	分子研	春日 俊夫
17:15-17:45	観測システムの現状と研究成果	分子研	渡辺 誠
17:45-18:30	-見学-		
18:30-20:00	-懇親会-		

## 12月10日(土)

9:00-9:20	原子・分子クラスターの光イオン化過程 -しきい電子スペクトルの測定	分子研	平山 孝人
9:20-9:40	状態選択イオン分子反応- $\text{Ne}^+(\text{}^2\text{P}_1)+\text{OCS}$ 系	分子研	鈴木 信三
9:40-10:00	超臨界Xe中に溶解したアントラセンおよびTMAEの 光イオン化: Xe密度依存性	東大教養	中川 和道
10:00-10:20	シクロアルカン液体中の励起エネルギー移動	阪大基礎工	岡田 正
10:20-10:50	-休憩-		
10:50-11:10	主鎖-側鎖共役型ポリジアセチレンの反射スペクトル	東大理	市村 厚一
11:10-11:30	ポリジアセチレン・C <sub>4</sub> U-C <sub>4</sub> のUVSOR 光領域における 光学スペクトル	東大工	長谷川達生
11:30-11:50	オリゴチオフェン、ポリシロキサン等の有機固体の 光電子分光	広島大理	関 一彦
11:50-13:00	-昼食-		
13:00-13:20	低温における石英ガラスの真空紫外反射スペクトル	大工試	松岡 純
13:20-13:40	光CVD-SiO <sub>2</sub> 膜の真空紫外光域における光学的性質	阪大基礎工	奥山 雅則
13:40-14:00	SiO <sub>2</sub> 結晶における励起子緩和	名大理	谷村 克己
14:00-14:20	Bi系酸化物高温超伝導体の光電子分光	東北大理	高橋 隆
14:20-14:50	-休憩-		
14:50-15:10	光電子全収量スペクトル-Ge-L edge 他	金沢大教養	直江 俊一
15:10-15:30	アルカリハライド量子井戸励起子	東大教養	江尻 有郷
15:30-15:50	リチウムハライドにおける自己束縛励起子発光	阪市大工	藤原 康治

15:50-16:10 アルカリハライドの固有発光とSTEの  
オフ・センター構造

京大理 神野 賢一

研究会報告

ISSP-SRL  
ユーザーズ・ミーティング

(東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設利用者研究発表会)

大阪府立大学工学部

塘 賢二郎

東京大学物性研究所軌道放射物性研究施設 (ISSP-SRL)のユーザーズ・ミーティングが1月25日、26日の両日にわたって東京大学物性研究所講義室で、INS-SOR同好会主催で開催された。出席者は60名の多数にのぼり極めて盛況であった。このユーザーズ・ミーティングは私達ユーザーが東京大学原子核研究所のシンクロトンよりの軌道放射を利用して研究し始めた当時より、物性研究所の短期研究会に連動して、あるいは単独で、毎年ないし隔年に開催しているもので、軌道放射物性研究施設の特徴である真空紫外および軟X線領域での研究発表の場として由緒あるものである。

以下にミーティングのプログラムと発表内容の概要を掲げる。

日時： 1989年 1月25、26日

場所： 東京大学物性研究所1階講義室

プログラム

1月25日 (水)

10:30-10:35	あいさつ	大阪府大工	塘 賢二郎
10:35-10:45	物性研軌道放射物性研究施設の現状	東大物性研	石井武比古
10:45-10:55	SOR-RINGの現状	東大物性研	宮原義一
10:55-11:05	測定系の現状 [I]	東大物性研	菅 滋正
11:05-11:15	測定系の現状 [II]	東大物性研	柿崎明人

特別講演

11:15-11:40	準結晶	東大物性研	竹内 伸
11:40-12:05	酸化物高温超伝導体	東大物性研	福山秀敏

12:05-13:15 昼食